

# 市長賞

## 私たちの選択

堺市立 原山ひかり小学校 六年

道 古 楓 花

「犯罪がこの世から無くなればいいのに」世界の大多数の人が思つてゐるであろうこと。流れてくるニュースで個人的に犯罪についても考える機会が増えていたそんな時、この作文をかくことになり、自分の経験を元に犯罪や非行をした人の立ち直りについて改めて考えてみることにした。私も、自分の中では大きな過ちを犯してしまった事があつたからだ。その過ちのせいで私は重く苦しむことになり、そのとき多くのものを失つてしまった。

皆さんは犯罪や非行をした人を、怖い、関わりたくないと思うだろうか。それはやつてしまつたことの大きさにもよるが、大きい小さいに関わらず、大多数の人がそういう感情を抱くだろう。私が過ちを犯してしまったときも、一部の人から避けられ、これまで築いてきた友情関係などが崩れてしまつた。一度でも壊れてしまつたものは、絶対に元に戻すことは出来ないということを痛いほど分からされた。少し時間が経つと、すごく後悔し、本当に反省した。でももう遅く、どうすればいいかわからず追い詰められて、その時期私は人間関係にひどく悩み、一人で抱え込んでし

まつていた。家族にも話す事ができなかつた。勇気が出なかつたこともあるが、何より、元々悪いのは私だつたからだ。元は自分のせいなのに、助けを求めていいのか、苦しいと声を上げていいのか、泣いていいのか、分からなかつた。周りから見ればくだらない小さいことかもしれないけれど、あの時の私に見えていた小さな世界の中ではすぐ大きなことだつたのだ。実際に私の学校生活にも大きな影響を及ぼした。

「何か悩んでいる事があつたら言つてね」両親に何回もかけられた言葉。心配をかけてしまつてゐるな、と申し訳なくなつてしまつてゐた。このことを母親に話す事ができたのは最近のことだつた。頷きながら最後まで話を聞いてくれて、話が終わつた後、「それはやつちやいけないことだつたけど、大切なのは、今自分がどう思つてゐるかだよ。反省してゐるんでしょ? 変わろうと努力していれば、周りの人もきっとわかつてくれるから。」

そう言つてくれた。心の中にかかつてゐたモヤがすうつと晴れた気がした。勇気を出してよかつた、聞いてくれる人がいてよかつた

た、その時すゞく安心して、やっぱり、誰かに話すべきなんだ。

そう思つた。

「ちゃんと嫌つて言つていいと思う。」

六年生の時、私が友達にかけた言葉だった。その友達は周りの人たちから、昔にやつてしまつたことのせいで少しイヤなあだ名をつけられていて、その子は笑つてやり過ごしていたけど、私の目には無理して笑つているようにしか見えなかつた。だから私は恐る恐るその子に言つてみた。「…間違つてたらごめんだけど、嫌なんだつたら、ちゃんと嫌つて言つてもいいと思うよ。勇気が出ないなら、話聞くから」

するとその友達は、少し話をしてくれた。「話聞いてくれてありがとう。なんか勇気出たかも、ほんとありがと！」と元気に笑いかけてくれたその瞬間、自分のことを思い出した。話を聞いてもらえることはやっぱり安心するんだなと、もう一度思つた。その時、声をかけるのはすごく緊張したけど、この一言で少しでも救われてくれるなら、何度も声をかけ続けたいなど自分は思つた。

これらの経験から、犯罪や非行をした人が立ち直るために必要なのは、「話を聞いてくれる人」「受け入れてくれる環境」なんじやないかと思つた。犯罪や非行をしてしまつた人がどれだけ後悔し、反省していく、変わろうと努力していても、周りの人達が突

き放してばかりだと変わりたくても変わることは絶対にできない。私達周りの人の対応で犯罪や非行をした人が変わる事ができるかが決まるのだ。罪を犯した人の中にも、やり直したい、反省している、という人はたくさんいるだろう。それでやつてしまつたことが許されるわけでは決してないが、その気持ちがあるなら、私たちは受け入れ、支えていくべきだと私は思う。本当に反省している人とそうでない人の区別をつけるのは難しいが、その人の過去を見て突き放すのではなく、一度、その人の「今」を見て欲しい。私達がどう対応するか、どんな言葉をかけるかによつて、その人の未来が大きく変わると私は思う。犯罪や非行をした人を許して欲しいとは言わないが、その人をしつかり見て欲しい。偏見ではなく、その人の今の気持ちに寄り添い声を聴いてあげて欲しい。綺麗事は言えないが、私はこの考えをずっと抱えて生きていいく。

犯罪や非行をした人を軽蔑し、批判し続けるのか、犯罪や非行をした人の声に耳を傾け、やり直そうとしている人を支えてゆくのか、皆さんなら、どの選択をしますか？

